

22) 筋ジス病棟カーデックスの検討

国立療養所西奈良病院

前田和典	地石孝子
高橋三代	橋本孝司
谷口君枝	中島京子
大下千代子	木下美世施
品川かよ子	山口スエ子
山岡和美	鶴岡順子
山中みや子	真田道子
前田礼子	

<はじめに>

本病棟が開設されて2年を経過したが、特に疾病の治療にかたよった医療から障害をもった一人の人間として患児を、総合的にとらえ、患児のニーズに沿った患児中心の療育が行なわれなければならないと、スタッフよりの意見が高まってきた。その中でまず、患児をよりよく理解するために情報交換を密にすることによってチームナーシングを行うことにした。その一つとして、カーデックスを作成、病棟スタッフ全員が同一用紙を使用することにより治療、看護、訓練、生活指導状況等の患児に関するいつさいが一目で把握できるようなものと配慮し作成したものを現在試用中であるので発表する。

<方 法>

一目で患児の生活状態が把握できるように従来の体温表にカーデックスを加え、四枚一組のビジュアルブックを作成した。カードの大きさは体温表に合わせカードの内容は、治療、看護、訓練、生活指導の立場より意見を出しあい検討した。カーデックスについては表Ⅰ、表Ⅱの通りである。

体温表はそのまま使用することにし記録用紙は症状所見、看護記録、訓練記録、生活記録の四項目にわけそれぞれの立場より記 できるようにした。

使用状況

使用開始 昭和51年10月1日

表Ⅰは3カ月に1回更新し、その後の変化は、その都度書きかえる。表Ⅱは、朝のカンファレンス後、受持ナースが記載、カンファレンスは毎日10時15分から30分までスタッフ全員が参加している。

<結 果>

患児の状況を総合的に一見でき、療育上の問題点が把握しやすい、誰がみてもわかりやすいものであるに加え、スタッフは同一の記録用紙を使用し、記録用紙の上で情報交換、意見交換することを目標に作成したがスタッフ一人一人がまだ十分に自分のものとしてとらえていない状態であるため、今後検討を加えて行きたい。

表 I

患児(者)の状況	学歴	写真	患児(者)の行動観察及び診断検査	項目	診断		
	性			社会性			
趣	情緒性						
習	協調性						
癖	思考性						
偏食	自主性						
療育意識	創造性						
家族構成・健康状況	既往歴			責任感			
	入の院経過			行動傾向			
				検査名	実施年月日	診断及び特徴	印
更衣	着脱	診療の補助		実施項目	回数	単位 分 m	注意事項
洗面		与薬治療		歩行			
食事				階段昇降			
排泄	便	処	置	足踏			
	尿			平行棒歩行			
就寝準備		検	査	装具歩行			
体位変換				起立			
入浴				立膝			
移動				立膝姿勢			
その他				四つ這い			
				四つ這い姿勢			
				いざり			
				寝がえり			
				股筋			
				背筋			
				ストレッチ			
				その他			
氏名	年齢	病名		障害段階	血型	連絡先	

表 II

治療方針				機能訓練目標	
看護目標				生活指導目標	
月/日	問題点	問題とする理由	解決法	実施事項	反省・評価

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

<はじめに>

本病棟が開設されて2年を経過したが、特に疾病の治療にかたよった医療から障害をもった一人の人間として患児を、総合的にとらえ、患児のニードに沿った患児中心の療育が行なわれなければならないと、スタッフよりの意見が高まってきた。その中でまず、患児をよりよく理解するために情報交換を密にするとすることでチームナーシングを行うことにした。